

英知通信

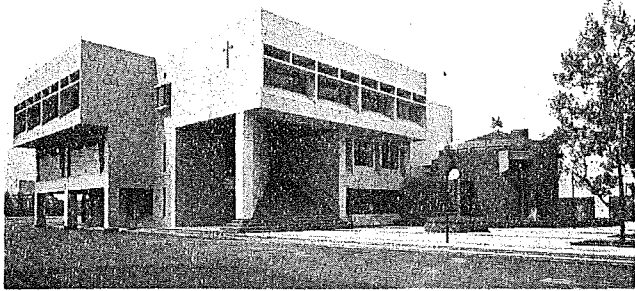


ご挨拶

―チャペルと図書館竣工式にあたって―

各界御来賓の皆様、また英知学院関係者の皆様、本日の英知学院チャペル及び英知大学附属図書館竣工式にあたり雨の中、遠路はるばる御来学下さいまして誠に有難く心より御礼申し上げます。

皆様のお蔭によりまして、英知学院は学院創立すなわち英知短期大学創立以来、本年で十五周年を迎え、この記念の年に長年の念願でありました学院チャペルと附属図書館を完成するに至りました。今朝九時三十分より本学の創立者、前学長であられる田口枢機卿殿下の司式によりまして、これらの建物は祝別を終りました。さて、学院創立以来、私共は臨時のチャペルを使用しております。



附属図書館 学院チャペル

自然の光は超自然の光をあらわすものであります。日本におけるキリスト教諸大学のうちでも恐らくはじめであるこの円型のチャペルは非常に近代的であることによつて、却つて遠くローマ古代の宗教建築に似たものとなりました。このチャペルの持つ特質は円型であるチャペルの内側に二十七の座席を設けたことによつて、このまわりに座る人々はお互いに対面し、心をひとつにして中心なる祭壇に向かうという行為によつて、人間の心の共感・愛をあらわすものとなっております。この形は祭壇

たが、この度本格的チャペルを持つに至つたのであります。

四社の設計のうちより藤木工務店の設計が採用されまして、こんにち実現をみましたこのチャペルの特色は次の様なものであります。

チャペルは聖なるもの、神への上昇をあらわす聖なる空間でありまして、ミサの序唱の祈りであります様にラテン語の *Sursum Corda* 「心を上へ」をあらわすため、このチャペルは四・五メートルという比較的高い天井と柱及び内壁の縦の線によつて、この宗教性をあらわしています。

それに対して神の恩寵の下降を象徴すべく、祭壇の真上に天窗を開き大空の光を入れてありますが、この

からは、いわば両腕によつて人間を抱きかかえようとする神の愛、暖かさをもあらわすのです。神への愛という上昇の途と、人間同志の愛なる横への途とはキリストの十字架において結合されております。これがキリスト教の中心的事柄であります。正面の三つのステンドグラスの十字架は世界、ひいては宇宙をあらわしております。

なぜかと申しますと、キリスト教の立場からみれば、世界はこの三つの十字架で象徴されるのです。すなわちキリストが「受難の時、「されこらべ」という所で十字架につけられたが、ルカの福音書によれば、その右にひとりの犯罪人、その左にもうひとりの犯罪人が十字架につけられたことが伝えられております。ひとりとはキリストに対して悪態をつきました、もうひとりとはそれをたしなめ、イエズスに次の様に申しました。「イエズス様、王様になっておいでになる時には、わたしを思い出して下さい。」その時、この人はイエズスから最もしあわせな言葉をいただいたのです。

「わたしは断言しよう。お前はきょうわたしといっしょにパラダイスにいるだろう」と。(ルカ二三の三二―四三参照)。

従つて三つの十字架は全人類を象徴しております。

更に三つの方角に入れられたステンドグラスがありますが、十字架は信仰を、ローソクの光は希望を、キリストの体なる聖体は愛をあらわしております。この聖堂は真理を愛し真理を求め続けた信仰と学問の人であるキリスト教世界最大の聖者の一

人、古代の教父、聖アウグスチヌスに捧げられています。このチャペルの総面積は八七・九五ヘーベであります。

次に附属図書館であります。この三月までは、昭和四十三年四月に完成した図書館を使用しておりました。蔵書がようやく五万冊に近づき従来の書庫では所蔵不可能となり、新しい図書館が必要となりました。今回の図書館は設計の始めから、「複雑性のうちなる調和」を目指して、彫りの深い建物となつております。形象と色彩の美を実現したこの図書館は優雅さに満ち、英知大学と英知大学学生の特長である人間的優しさによく調和したものと確信しております。

ご承知の様に、図書館は大学にとって学問研究のセンターであり、学問研究を通しての人間形成の場である大学にとって必要欠くべからざるものであり、そこでは学問研究における精神の安らぎ、魂の静けさとも言ふべきものが、求められておりますが、この図書館はこの要請を満たしていると思ひます。この図書館は十五万冊所蔵可能な書庫をもち冷暖房を完備しております。一階は予備の書庫と、宗教研究室ともなる宗教関係図書に独立した特別閲覧室と事務室、機械室、客室、応接室、宿直室、ホワイエ、ラウンジ等よりなり二階が図書館のメインエントランスでありまして、ラウンジ、ロッカールーム、目録ホール、開架閲覧室、図書館事務室、館長室、休憩室、及び積層の書庫等からなっております。三階は閲覧室、教授閲覧室、会議室、テープ保管室、バルコニー、

倉庫等からなっております。尚、書庫の設計施工は丸善株式会社によるものであります。この図書館の総面積は二二一九・二五ヘーベであります。なお、この附属図書館に対して教室棟からブリヂが連絡しております。これらの工事のための礎式は昨年六月二十二日田口枢機卿下の司式によって壮厳に行われ、工事は藤木工務店によりまして、昨年七月下旬より開始され、本年三月末日完了いたしました。この優れた設計を実現させた工事関係者の卓越せる技術と学院の希望の実現に終始努力されたその人間的誠意とは長く記憶されることでありましょう。

この度の建設が実現をみましたのは初代学長田口枢機卿下のなみなみならぬご熱意とご努力によるのであります。ドイツのケルン教区、オランダの財団、ローマ聖座よりのご寄付はいつにかかって同枢機卿のご努力の結果であり、また大阪大司教区よりの寛大なるご寄付に加えまして、英知大学後援会のご寄付、更に後援会役員の方々のご寄付、英知大学同窓会よりのご寄付其他教会関係及びその他の有志の方々よりのご寄付、日本私学振興財団及び市中銀行よりの借入金、学債を合わせてここに建設が実現いたしました。

この建築のためご好意を寄せられました皆様に対しまして、本日の竣工式にあたり改めて心から感謝を申し上げますと共に、皆様おひとりおひとりの上に神様の御祝福をお祈りいたす次第であります。

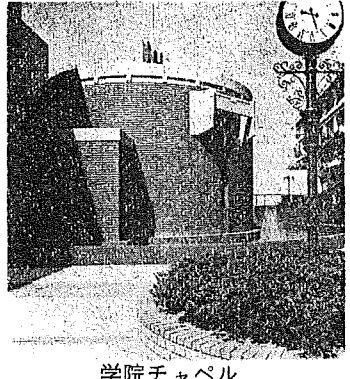
英知大学は短大創立の翌年昭和三十一年四月に創立され、現在、在学生一千余名の小さな大学ではあります、が、神学部より始まったことによ

って、世界における大学発祥の歴史の伝統に連なるものであります。来年は十五周年に当り、これを記念して、学院は本年更に四階建二二〇三・〇六ヘーベの研究棟を建設することを決定、藤木工務店の設計施工により、来月上旬より着工の予定であります。

さて、英知大学は創立以来、英知・サピエンチアを建学の理想としております。これは単なる知識ではなく、知識を生かす知恵のことでありまして、聖霊の賜のひとつなる英知のうち、カトリシズムの教育理念を結集し、「英知ある人」の育成に励んでまいりました。英知とは人間がよってもって生くるにたえる普遍的世界観の確立、一切の科学・文化・宗教を総合する精神であります。

この度のチャペルと図書館の完成によって、宗教と学問・信仰と知識の総合を求め私共の大学の歩みは一步前進したと確信しております。これを機会に更に皆様の暖かいご同情とご支援をお願いいたしますと共に、教育のために一層の努力を傾けますことをお約束申し上げ、ご挨拶いたします。

一九七七・六・一一
学長 岸 英司



学院チャペル

甲南大学長衣笠茂教授は次のよう
にあいさつされた。

「英知大学図書館竣工式においてお祝詞を申し上げる機会を与えて下さったことを心より感謝したい。私個人のことになって恐縮であるが、私は若王寺の地に生まれ、螢やとんぼを追いつながら少年時代を過ごした。甲南中学に入学した私は、軍国主義一色の教育の中で『日本一立派な人間になれ』という教えを受けた。けれども、恩師とのめぐりあいによって、もっと大きな神の愛があったことを悟らされた。京大在学中に私は召集を受け、軍務に服した。そして終戦とともに帰郷すると若王寺の自宅はすでになく、陸軍の倉庫となつてしまっていた。

けれども私の育ったこのゆかりの地、若王寺において人類文明につながる英知大学が建つたことはうれしを得たのである。

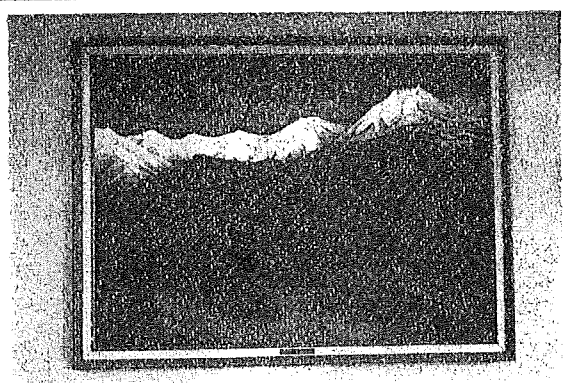
田口芳五郎枢機卿のあいさつ
「古代ギリシアの哲学によれば、哲学とは英知を愛するものであった。英知とはたんなる知識ではなくて、神より出てきた神に向う知識にほかならない。英知はまた神と同一視されていたぐらゐである。

神は人間の究極の目的であり人は人生の意味を神認識のうちに見出すのである。

このたび本学においてチャペルと図書館が完成された。チャペルに入って心を落ち着けて神の永遠の言葉に耳を傾けよう。

来年は創立十五周年を迎える。研究棟の建設が予定されているが、このために今後ともご協力をお願い申し上げます。

新図書館に「八甲田山」出現?



新図書館の白壁をバックに壮々とそびえ立つ「八甲田山」は竣工を記念して本学後援会役員の中義一氏から寄贈された一五〇号の日本画。「八甲田」と題するこの作品は社団法人日本画理事の竹内未明画伯の筆によるものである。青々と連なる遠い北国の山に思いを馳せながら本のページを繰る手も次第に早くなるというもの。背景の白はややもすれば前方へ飛び出して見えるという傾向があるといわれるが、この絵においてははしかるべき位置と全体との調和を保ちながら実にすばらしい効果をかもし出している。

「山を大切にしよう」と叫ばれている今日、私達もこの「山」を大切にしていこう。

図書館をもっと利用しよう!

のではなく、自ら積極的に研究テーマを取り組んでいかなければならない。授業中に扱う素材をしっかりと自分のものとし、これを主体的に発展させていかなければならない。その際に資料を提供してくれるのが図書館である。だから図書館は大学にとって絶対に必要なものである。

また大学に入った学生は学問のみならず、広い教養深い知識を身につける必要がある。そのためにも図書館を大いに利用したい。学生時代に一冊の本を熟読して深い感銘を受ける体験と共に、次々と多読する体験はきわめて貴重である。人間はずばらしい人々と出会うことによって成長していくのであるが、読書は時間や場所を越えて、過去

の偉大な思想家や遠国の有識者との
出会いの場にはかならず、この意味
で図書館は人間としての場であると
いえる。

いずれにしても適切な良書を選ぶ
ことが大切である。それは良き友を
選ぶことと同じである。そのために

図書館・チャペルの竣工を記念して

藤木工務店 中嶋 淳



設計者 中嶋淳氏

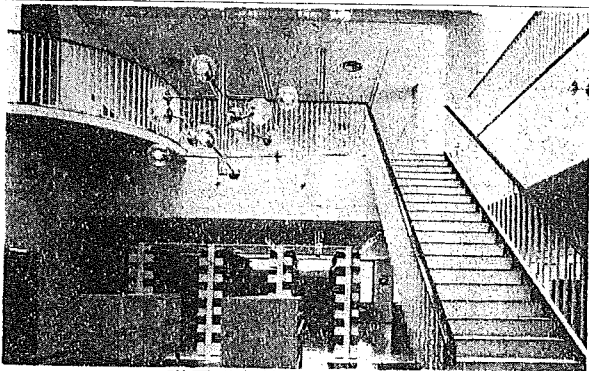
この度の図書館及び聖堂の竣工を
心よりお祝い申し上げます。学長広
報室より設計者として一言というこ
とであります。第一番に昨年二月
の設計着手以来学長をはじめとする
多数関係者の方々の非常な御協力と
御努力とによって、無事本年六月の
竣工式に漕ぎつけましたことを深く
感謝いたします。このうえは一刻も
早く大学に溶け込んで、存分に使い
込んでいただきたいと思います。まるで
娘を嫁がせた親のような心境の近頃
であります。

先生や先輩を尋ね、良い手引きをし
ていただくことを進めたい。
本学の図書館はまだ在庫数も少な
いが、四年間の在学中に読むべき書
物には事欠かないであろう。図書館
は単なる本の倉庫ではない。諸君が
来るのをあくびして待っている。

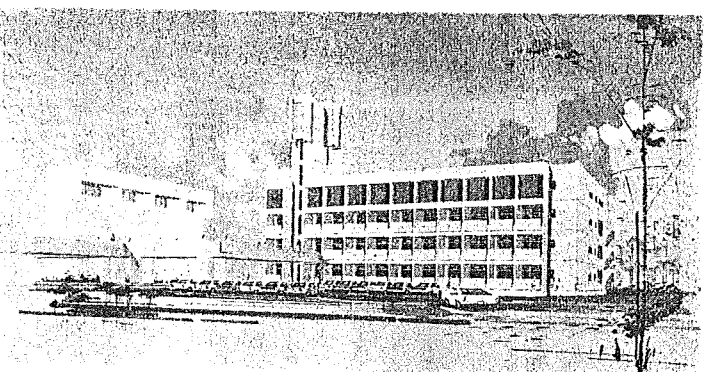
岸学長は驚くばかりに建築に精通
された方で、私共の意見を尊重して
よく理解していただき、実施設計段
階での大幅な設計変更にもかかわらず、
コンベア案内のコンセプトとデザイ
ンメソッドで最終的にまとめ上げる
ことが出来たのは、ひとえに岸学長
の深い御理解によるものと厚く感謝
しております。

設計の構想を分解して記述するこ
とは困難なことではあります。大
旨次のようなものであります。

最後に、英知大学の存続の限りこ
の建物が建築的生命を保ってくれる
ことを祈ってこの稿を終らせていた
できます。



附属図書館 目録ホール



研究棟完成予想図 (来年3月完成予定)

研究棟建設進行中

六月二十四日に定礎式を終えた研
究棟は着々と工事が進んでいる。
この研究棟は冷暖房完備の鉄筋コ
ンクリート四階建て、附属図書館の
西側に位置し、各階とも教授の研究
室および共同研究の部屋が設けられ
ている。
すでに三階の建築が終了し、目下
四階が建築されつつある。
なお待望の竣工は来春の予定。

蟬を聴く

—肩の荷おろして—

前会長 山口 満雄



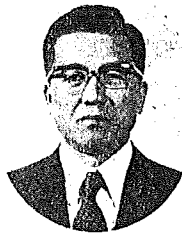
今年夏は夏らしい夏である。高温多湿の不快指数はこの国の

夏のしぎにくさであっても、私にとってははじりじり照りつける猛暑の中で過すこそむしろ楽しい。

最近はじめの経験といえ、ミンミンゼミが鳴いている木の下のとおつても、セミは私におかまいなく「ミンミンミン」と精一杯ないてる。セミの鳴き声を聞くと忘れたものへの郷愁を覚える。英知大学の後援会準備委員会も三年前の七

新任の「あいさつ」

後援会長 福田 健彦



このたび皆様の推薦により思いがけなくも後援会の会長を

お引き受けすることになりました。

後援会は発足以来三年を経過しましたが、山口前会長をはじめ皆様方のご努力とご支援により着々とその基礎をかためてまいりまして、英知大学の充実と発展にお役にたちつたことはまことに御同慶のいたりますことと、ここに特に後援会の創立と創立以来

月の暑いさかりであった。

はじめの頃は約半数の父兄は後援会に心が薄かったようだ。いくら手紙で呼びかけても、会費納入者の数は、努力のほどには成果があらがず、書記の石田さんといっしょに首をひねったものだった。それが、総会のあとのティーパーティー、大学創立記念日の懇親パーティーが開かれるようになってから、後援会への関心、理解が生まれてきた。

パーティーでは、学長はじめ担当教授や諸先生と父兄の対話が行われ、英知大学の教育方針、良さが次第に父兄の中に浸透していった。これが後援会のためにもなったと思われる。よく卵が先か鶏が先かとか、将を獲んとせば先ず馬を射よとかいわれるが、何事かを企画し実行するに当たっては相互理解の必要性というものを

その発展に御尽力いただいた山口前会長、山岸、本多前副会長に対し深く感謝の意を表したいと思ひます。英知大学は「カトリズムを基調として学問による人格の陶冶人間の形成」を建学の精神としている大学であります。創立後歴史もさほど古くなく又規模も他にくらべ大きいというわけではありませんが、然し私共は数多い大学の中にあつて真に学問教育の府としての使命を追究している数少ない立派な大学であると確信しています。

しみじみ知ったのである。

後援会の事業項目の中に会員の親睦がうたわれているが、岸学長さんが卒業して父兄の中に入り、話し合つてくださることは、前記のような意味でも、この大学のユニークな点としていつまでも続けていただきたいものだ。

娘の卒業を期として会長を辞し、ここに、よりふさわしい福田健彦さんをお迎えできたことは、大そう喜ばしいことである。

を享受しうるようになりました。然し、一方こういう物質的繁栄とひきかえに、日本人が古来もっている豊かな心が次第に失われてゆく淋しさを感じている人は少数の人達だけではないと思ひます。かような豊かな心——之は日本人が本来もっている宗教心に根ざしている——と私は思つていますが、感受性に富んだ学生時代に教えはぐくんでゆくのは人生にとって最も大切なことであり、又大学教育の使命であると思ひます。

昭和五十二年 度 英知大学 後援会 役員 決まる

役員決まる

五月二十一日の総会の席上、会長・副会長・監査が選出され、会則第七條により、会長が常任理事・理事を委嘱して、役員全員が次のように決まる。

英知大学後援会役員

会長	福田 健彦
副会長	深井 久男
同	田中 義一
同	山岸 睦雄
同	松井 良太郎
同	小林 啓子
同	阪本 登茂
同	梅田 正一
同	牧田 莊一郎
同	田淵 正夫
同	野口 徹
同	井穴 寛
同	道野 裕
同	増山 隆信
同	関野 忠
同	桑野 博昭
同	松田 利明
同	永井 政之助
同	網谷 義郎
同	筋内 章
同	中畑 孝

第三回英知大学 後援会総会を開く

後援会総会を開く

五月二十一日(土)午後二時半より、本館三〇一教室で第三回総会を開く。当日は幸にも天気恵まれ、昨年より多く、八十五名が出席、こ

の方々の大部分は大阪・兵庫・京都の近府県からでありましたが、福岡の遠方から態々出席される熱心なご父兄もあり、定刻に次の次第によって始める。

1. 開会のごとく
- 山岸副会長より開会を宣せらるる
2. 会長あいさつ

山口会長は皆様のご誠意あふれるご協力によって、会員も九〇〇名を越す多数となり、在学生のご父兄の殆んどが、会員という状態で、早や四年目を迎えてわが英知大学後援会の基礎が確実に出来上り、今後わたしたちの子弟が受ける恩恵は大いなるものと信じます。これ偏えに皆様のご心よりの愛情の賜と感謝いたしております。かくてこそ、わが英知大学は、わが国カトリック三大学の一つとして立派に成長し、発展する大学と信じます。と力強くあいさつされる。

3. 理事長あいさつ

只今、山口会長のごあいさつの中にありましたように、ご熱意こもる充実した後援会を、この英知大学がもちますことの幸せをよるごび、毎年大学に対し、多額の助成金をいただき誠にありがたうございますと、心よりお礼を申し述べらるる。

4. 講演

岸学長先生より「学生生活の意味」と題して講演される。その始めに当って、僅か三か年でこのような確固たる基礎を持つ後援会が出来上り、毎年ご援助をいただきありがたうございますと

英知大 昭51年度 後援会 昭和52年度 後援会

昭和51年4月1日より 昭和52年3月31日まで

1. 収入の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 入会金, 年会費, 雑収入, etc.

2. 支出の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 助成金, 事業費, 事務費, etc.

3. 差引残高無

衷心より感謝を述べられて、講演に移られる。その講演の要点は、大学である以上、学問の研究を深めることが第一であります。

5. 議事

会則に従い会長が議長となり議事を進める。(1)昭和五十一年度決算の審議 議長の名指により、別紙決算書に基づいて、石田書記より各項目について説明、終つて、筋内監査より、詳細に監査いたしましたところ、適正に処理され誤りのないことを認めます。

英知大 昭52年度 後援会 昭和53年度 後援会

昭和52年4月1日より 昭和53年3月31日まで

1. 収入の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 入会金, 年会費, 雑収入, etc.

2. 支出の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 助成金, 事業費, 事務費, etc.

3. 差引残高無

に納入することとなっている。二回生以上のご父兄の納入する会費は従前の通りである。この改正に従つて予算を組み、各項目にわたつて説明、何の質問もなく、全員異議なく承認決定する。

議長より、はかられるや、会員の中から役員会の案を発表して頂いてはどうかとの発言があり、その意見に賛成となり、次のように発表。(敬称省略) 会長 福田健彦 副会長 深井久男 同 田中義一 同 中畑孝 同 中畑孝

(3) 役員改選

会則によりますと役員任期は一年となつておりますので、役員を改選せねばなりません。

(4) 感謝状贈呈

会則では、お子様が卒業されるに従い会員でなくなり自然退会となります。従つて今回これに該当せられるのが、山

(5) 閉会のことば

本多副会長より閉会を告げる 終つて一同は学長先生の案内によつて、新築ま新しい学院チャペル並に附属図書館をみて、説明を聞き、いたるところで感嘆の声をもらされ、こうした立派なところで学ぶわが子の幸せを喜んでいられる様子がうかがわれました。

後援会茶話会を開く

図書館見学の一巡が終るや直ちに新しい図書館の一室で、懇親茶話会を開く。今日の集りの大部分の方々は、新入生の親達が多く、始めて知る大学に親しさを感ずるうちに、福田会長から自己紹介が始まり、和氣あいあいのうちに順次紹介がユーモ

口会長・本多副会長・淡野常任理事の方々であります。斯様な事情になりましたので、理事会では、後援会発足の最初から今日までの三か年にわたつて誠心誠意ご尽力を賜わり、人知れないご苦労ご努力を頂いて、今の後援会に育てあげて下さつたご苦労に対し、感謝状を贈呈することに決議され、総会においてお渡しすることに決まり、本日の運びとなつたわけでありませう。

- 会長 山口満雄氏 副会長 山岸睦雄氏 同 本多三郎氏 以上

ラスの中に続く。そのうち一、二を捨つてみると、あるお父様は、大学にお世話になってから、毎晩この父おやに一時間位大学のことを楽しく話すようになりました。とか、学長先生の講演にありましたように、よく挨拶するようになりましたので、今後大きい人間形成をしていただきたいとか、すばらしいチャペルでぜひ結婚式をあげさせてほしいとか、話も追々とはずむうちに、学長先生、理事長様、会長様などと打ちとけて次から次へと話され、益々親しさが増し、大学と家庭との距離が縮まり、それぞれよい大学で勉学の出来る喜びを胸にいだいて、五時半を過ぎる頃家路へ急がれた。

(文責 石田書記)

アルフレッド・メルシエ

元教授 帰天

本学、元フランス文学科教授、アルフレッド・メルシエ神父はかねてより神戸海星病院に入院、療養中のところ、八月二十二日、腸ねん転のため永遠の眠りについた。享年七十二歳。

メルシエ教授は昭和五年、来日してから宣教活動にたづさわられた。昭和三十三年より病床に伏すまで本学で教育にあたっていた。

葬儀は八月二十四日、神戸の中山手教会で本学からは岸学長をはじめ方々から多数の司祭が参列してしめやかにとり行われた。

メルシエ神父様がやすらかに眠りたまわんことを心から祈るばかりである。

故大園副学長をしのんで

追悼 ミサ

去る五月二十八日、完成したばかりのチャペルで故大園義興副学長の一周忌追悼ミサが岸学長の司式によっておごそかに捧げられた。ミサには今なお故人を慕ってやまぬ人々が大勢集まり、ひとりひとりの中に生きていた故人の思い出などを語り合った。

ミサに参列した山崎正雄先生(英文学教科長)は、「生前、あまり接触はありませんでしたが、同じ旧制高校の先輩、後輩の間柄で、とても親近感を感じておりました。同じく同窓生の前田総助先生(フランス文学科助教授)と三人で一席もうけようと話し合っていたのに、思いを果たさずしてお亡くなりになってしまつて今でも悔やまれてなりません。」と言われる。また、生前このほか嵯峨野を愛しておられたという大園副学長。気がむいたらふらふらと行かれたとか。人の見たものをそのまま受け取るのではなく、自分の目で、耳で、頭で物の真髄にふれようとした大園副学長は、お一人でぶらぶらと嵯峨野を歩きながら、いったい何を思いめぐらしていらしたのだろうか。故人が病床にあるとき、山崎先生が出された大原の絵がぎに五枚もの便箋でお返事を書かれた。その文面には、二十九歳にして黒染の衣をまとい、大原の山里深く身を隠した建礼門院への同情がせつせつと綴られてあったという。

『つい療養中のひまにまかせて先生のおくつて下さった一枚の大原の秋のすずきの風情に触発されてとんだ長広舌をふるってしまいました。長期療養者の所在のなき、物をいしさのなせる業と御覧下さい。』結びにはこう書かれてあった。『結ば深まりゆく秋に、錦絵のごとく色づく嵯峨野を天の国からきつとご覧になっていらっしやるだろう。』

研究室便り

○西山俊彦教授(社会学)はこの度、日本カトリック大学連盟より第二回「カトリック学術研究奨励賞」を受賞した。この賞はカトリシズムに関連性をもつ優秀な学術研究に対して贈られるもので賞の対象となつた学術論文は「宗教と人間形成―その試論的実証研究」というテーマのもとにプロテスタント、浄土真宗、禅宗、天理教、無宗教の人々とカトリック者について人間形成のあり方を比較検討したものである。この度の受賞にあたって西山教授は感想を次のように語った。

「新しいことを行うことはいつも期待と不安の伴うことだと思ひます。学問的な研究においても例外ではないでしょうが、本学にはそれを抱擁する自由な雰囲気がある。この本学の良さの中で、それを土台として今後よりいっそう研究に励んでいきたい。」と。

○ゲツレルト・ベキ教授(神学)はアメリカの出版社からハンガリー語で次の三冊を出版した。
 『TUDOM KINEK HISZEKI,』
 『初代教会の規模について』
 『MISZLIK MAZI,』 (全52ページ)
 『神秘主義について』

(全21ページ)
 『JAPAN MOZAIKOK,』
 『日本について』 (全45ページ)

なお、日本についての本を出版するのは今度で二度目だそうである。

○興津憲作教授(イスパニア文語)は、アリソン著『小さな哲学者の告白』を七月一日付で翻訳出版した。

本書は著者の自叙伝的なもので、「小さな哲学者の告白」以外にも二十七の短篇が含まれている。「移りゆく時のはかなさ、過ぎ去った時へのノスタルジーに満ち満ちている」作品の中に我々日本人は彼の繊細さを見出し、共感を呼ぶ」と訳者は言っている。

新泉社発行、定価一五〇〇円で現在発売中である。

○ロバート・ウエスト助教授(時事英語)は去る六月六日、毎日文化ホールにて午後六時から約一時間、英文毎日の主催のもとで行われた「時事英語シリーズ・レクチュア」の一環として Political Amajement という題で講演し聴衆に多大の感銘を与えた。

ウエスト助教授は天然資源をもたないわが国で実業家が一般国民の生活維持のために果たした功績をたたえたのち、一時的便宜的な手段ではなくて、普遍的な道徳律にもとづいて実業にたざざるべきであることを強調した。

○和田幹男助教授(聖書神学)

昨年、上智大学で「神を求めよ」というテーマで夏期神学講習が行われたが、このほど講師十五名の講演をまとめた講話集がエンデル書局より出版された。その中に和田助教

授の「イスラエルの祈りにおける神」と題する講演も収録されている。

なお、定価二〇〇〇円で発売中。

○玉谷直実助教授(心理学)は、七月二十日付で誠心書房より出版された「河合隼雄編―心理療法の実際」に「強迫神経症患者の実際」と題する論文を発表した。

本書は心理療法家の中級クラスに好適で、実際に心理療法に携わっている執筆者十名によって各自が経験した具体的な治療例をまとめたものである。

さまざまな精神病を克服しようとする患者と共に歩むカウンセラーの壮絶にも真摯な戦いの中に、我々の想像を越える世界を垣間みることが出来る。

○鮑宗賢講師(イスパニア文学)は精道教育促進協会より平井英子氏と共に「ナザレトのマリア」(フエデリコスアレサ著)を翻訳出版した。

「我々に最も重要にして唯一のもの、すなわち使命を完全に果たす忠実さを理解させて下さるお方」聖母マリアの一生を描き出すことによつてキリスト者の歩むべき道の道標となる書である。

英知通信

昭和五十二年十一月三十日発行
 編集者 英知大学
 学長広報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田
 一〇〇の一
 電話(06)四九一―五〇八三
 六六一